

第1次佐久穂町行財政改革大綱策定に伴う住民説明会
会議録

日時	平成26年11月10日（月）	時間	午後7時～午後8時37分		
場所	上区生活改善センター	参加者数	14人		
参加職員	挨拶	佐々木町長	司会	小宮山昇平	書記
	内藤健文、小池良 大工原進一、相馬哲雄、小林俊彦、渡辺永				
その他参加者	町職員 人 議会関係者 人				

記事（質問、意見、要望、対応状況など）

区分	発言者	質問・意見・要望等	回答
要望	男性	<p>あの、入りを増やして、出を減らすのが大原則になると思うんですけど、生産年齢人口の中の特に、子供が産める人たちを増やしたいということは、一目りょう然な訳なんですけど、まあ、もちろん、高齢者のみなさんは、戦後を一生けん命生き抜いてきた方々なので、その知恵を合わせながらということを考えて、サラリーマンで、まあ子供を産めるという人たちを増やしたいんですけど、ただ、そういう方たちというのは、興味がないという失礼なんですけど、こうゆうふうには危機感を持って、こうゆうところに出てきたりするということ、たぶん出来ないと思うんですけど。となると、私たちみたいな、町でこう経営をしている者とか、まあ、いってみれば青年部とかをもっと刺激して活性化させる必要があるのかなと。まあ、自分もそうなんです。考えています。いま、いろんな人たちと付き合うなかで、佐久穂町がほんとに好きで来てくれているひとたちがいる。新規就農の人たちですとか。まあ、後は、この間は、東小学校を使って、都会の一部、上場企業の社員旅行を企画した方も外から来ている人たち、そういった人たちが、今、とても活性化していて、町をなんとかしたい、第3の佐久穂町をなんとかしたいと、思っているんですけど、小集団で、こう集まってきたはいるんですけど、まあ、町の若い職員の人たちも絡まりながら、少しずつ組織が大きくなるようにしているところなので、今、説明を聞いていて、いいなと思ったのは、県やっている元気づくり支援金の町バージョンっていうのは、これをうまく使えば、まあ、私たちの考えている民間での活性化というのができるんじゃないかと、思いました。まあ、いろいろ考えはあるんですけど、今説明を聞いた事業を来年からでもスタートしてもらいたい。</p>	<p>元気づくり支援金というのを、既に、町内いくつもの団体が使って活性化しています。代表的なものとする、大石の花桃の会ですよね、県知事賞までとったということなんですけど、町単独のものを検討しているというのは、まさにご指摘のあったとおり、県の支援金も3年とか、補助の性格上、いつまでも、というわけにはいかないというのが実態ですので、もう少し、期間が必要、あるいは、県の枠も非常に狭いので、県枠から漏れたものでも、非常にいい事業は拾って活性化を図っていきたいと思います。</p> <p>平成27年から32年までの実施計画と言いまして、5年間の計画のヒアリングをしているんですけど、そちらの中でも数字の入ったものが始まっています。ちょっと、来年からというのを目指してはいるんですけど、補助要綱とか、といいまして、どうゆうものを補助対象にするとか、金額をどうするとか、補助率をどうするとか、決めなければいけませんので、作業を急ぐなかで、出来るだけご希望にそうようにしたいと町も考えています。</p>

		渡辺永こども課長より	<p>今あの、子育て支援ということで、子育て支援に力を入れているが、気持ちだけでは、なかなか成果もでない。若年人口が減っているその減少については、この町ではどうしていけばいいかは、なかなか結論はでないけど、情報発信して、町を好んでもらえればとおもう。今、商工会青年部さんは、パワーある団体だと思いますし。この前、町のある女性の方が町長室の方にお見えになりました。たいへん、活気のある皆さんで、やはり、これから町もお金がなくなってくという中で、地域の皆さんが力を発揮していただきまして、佐久徳町版の元気づくり支援金という制度も出来ますもんで、ぜひ、その皆さんに行政が出来ないこと、町の皆さんが、そこで知恵を出して、やっていただければ、細かなサービスができるのではないかと考えています。また、具体的には学童クラブ、中央小学校の跡地に計画をしております。子どもたちの放課後の場を作りたいと考えている。現在、しらかば社体は、当面継続したいと考えておりますが、平成30年ぐらいに、子どもたちの動向を見ながら統合したいと考えていきたい。</p> <p>また、学童クラブの利用料ですが、今まで、年間1000円ということでやってきたが、月1000円ぐらいでやっていきたい。利用者の皆さんも応分の負担をお願いしたい。</p>
質問	男性	単純な質問であるが、「何もしないでいると消えてしまう」と岡部さんが言われたのですけれど、実際にそうなのですか？自治体が崩壊する、それほどまでのことなのですか。教えてください。	<p>早世という意味は、辞書によりますと「無くなる」という意味ですね。これの元にあるのは、ある行政の方のレポートからになります。その中でこのような「字句」が使われております。消えてしまうかということは、正直誰もわからないことですが、自分の中では、これ以上この「まち」をなくしたくないという意味を込めまして、この字は、あえて使わせていただきました。</p>
質問	男性	あまり暗く考えなくていいか。(この字を使うと暗くなるが)	<p>そうです、町がなくなると困るので、この字を使いました。</p>
質問	男性	水利のことだけど、高齢化になり、上流の方で維持管理できないと、下流のほうはどうするのか？下流の方は、何にもしないで作れるけど、みんなが、ある程度、出し合っても、維持できるように、考えてやっていかななくてはいけないと思う。	<p>この問題も、わが町の基幹産業の一つである農業を維持していく、また、発展させていくためには、非常に大事だと思います。山の世界では、流域というような考え方があり、山が荒れると海があれということになり、壮大な連携をとっているところもあるようです。区の再編とまでは、いかないけれど、流域の単位で、道水路普請についても、山手で困っていれば町場で助け、町場で困っていれば、山手で助けるような、そんな連携が作ればいいと思っています。この話は壮大なので、若い人も年配の人も一緒になって、議論のきっかけとして、投げかけてさせていただいて、共に考えていきたいと思っています。</p>

要望	男性	大石水源から旧佐久町側も農業用水を使えるように引っ張ってくることはできないか？	はっきりと、ご説明できませんが、流域の水利権を放棄することで八千穂農水というのが、過去に作られたのですが、県の補助事業でやりましたが、今後、その維持補修については莫大な費用がかかることが予想されるので、できるとは言い難いと思います。
要望	男性	農薬散布するにも、旧八千穂の方に行けば、レバーを引けば、水が出るが、旧佐久町では川から水をくみ上げるようであるが、バランスをとってもらいたい。	<p>(町長) ご質問の水利、川西用水という名前ですが、始は皆さん、大反対であったが、2回ぐらい繰り返して、昭和60年ぐらいにようやく、できたんです。一番の元の水は、兜岩というところから出ている、湧水になりますが、その水利権は大石が持っていました。で、ようやく、大石の皆さんが納得していただいて、八郡の皆さんも理解をしてくれて、川西用水が始まりました。鋼管をふせて、まず、使うのは、八郡の水田の皆さん、大石の皆さん、上畑の勝見沢というところに来て、最後は月夜平のところまで止まっています。だんだんと管は細くなりますが、いろいろなところで、水を使用しますから、だいたい、最後に水が終わってしまう。佐口の皆さんが最初から中間になっていてくれれば、もっと太い管で、大量の水を持ってきて、いけたと思いますが、佐口は、まあ、円形分水によって、水利権は自分たちのものだ、村になって、ぜったいにやらないといということ、まあ、最近になって、あの時、川西用水に入っていれば良かったというのが、本音です。 ですので、もし、これから県営の事業で、こういうことができるのであれば、今度は、佐口の皆さんも、上区の皆さんも一緒になって、こっちの方まで引いてくれれば、非常に管理は楽です。もう、かつて、勝見沢というところは水がなくて、非常に苦勞がありました。しかし、鋼管をふせて、水の心配がなくなったら、今度は、田ぼを作る人がいなくなりました。非常に残念なことですけど。しかし、まあ、園芸をやっている人にとっては、非常に楽です。ちょっと、ひねると、キレイな水が出る。りんごで、一部、試験でやっていますが、これも成績がいいです。ですから、できれば、もし、可能であれば考えてやっていきたいと思う。</p>

質問	男性	<p>お聞きしたいのですが、町と町民と行政が協同して一体になってこの計画を進めていけば、今までどりの、住民サービスで済むのか。結局、住民がもう少し、一生懸命やってくれと、私は取ったのですが、そうすると、自分たちも協力すると、この5億円のことについては、なんとかいけるのかどうか。私は、この説明でいくと、なんとか達成できると理解したのですが、よろしいでしょうか。</p>	<p>戦後の高度成長期の中で、お金がたくさんありましたので、拡大路線を歩んできた。その中で、本来、町が提供すべきという視点というよりは、拡大拡大ということで、世の中が動いてきた。それは、けして悪いことではなかったのですけれども、今、その状態がどうなっているかという、永い歴史の中で、ここ100年ぐらいで、人口が爆発的に増えて、また、すごい勢いで減っていくと、いうふうに言われています。</p> <p>今のままだと、町が立ち行かなくなるということですので、従来、行政がサービスできていた分野を、皆さんと協力して、できるだけお金のかからない方法で、取り組みたいということで、町を維持していくと、いうのが考えかたです。その中で、町にも役割がありますので、その役割を明確にしたいということです。それは、負担だとか、場合によっては、皆さんにお任せしなければならないというシーンもあると思います。ですので、まず、自分たちができることをやってみると、そのできるところと、できないことを区分すると、もし出来なことは、共働きすると、どちらかといえ、町から皆さんにお願いすることが多くなるかもしれません。流れとすると、金銭的な事情もありますので、ご負担をいただくということになると思います。</p>